

## 令和6年度まちづくりを考える懇談会

「まちづくりを考える懇談会」は中標津町をより良く、住み続けたいまちにするため「こうなればいいな」「こんなことしたいな」と思うことを、町長と直接話し合う場として毎年開催しています。

令和6年度の「まちづくりを考える懇談会」は下記の3回開催し、ファシリテーターが懇談会を進行しました。

日 時	場 所
11月22日（金）13時30分	総合文化会館 第3研修室
11月22日（金）19時30分	総合文化会館 第3研修室
12月 6日（火）19時30分	計根別交流センター

### ●ファシリテーターが進行した懇談会の流れ

ファシリテーターが懇談会が進行することで、みなさんのご意見やご要望にその場で町長が回答する一問一答方式ではなく、町民のみなさん同士も含めてまちづくりについて「話し合う」懇談会としました。

参加者のみなさんから自由に、行政に対するご意見やご要望を承り、その意見に対してほかの参加者の考えを聞くことにより、共感があったり、異なる意見があったり、解決策を考えたり、みなさんで話し合うことができました。

## 流れ1. オリエンテーション

開会 ～ ファシリテーター紹介 ～ ファシリテーター自己紹介（グラフィッカー紹介）  
～懇談会の流れを説明 ～ 町長あいさつ

ファシリテーター：会議などの場において話し合いを促進する進行役

グラフィッカー：話し合いを文字や絵で描いて見える化することで内容をわかりやすく表現する人

今年度は町長より、「中標津町の現状、これからどうなっていくのか、どうしていくといいのか」等課題提起がありました。

おおまかな内容は以下のとおりです。

### ○中標津町の強み

- ・商業形態が発達しており、車で1時間以内の圏内（半径50kmの範囲）の町、別海町・標津町の他、浜中町やオホーツク管内の斜里町・清里町・小清水町などから買い物に来てくれているだろうと想像できる。
- ・根室管内の一次産業は非常にパワフルで、管内別の売上金を比較すると、十勝、オホーツクに次いで3位である。道東の市町村別の売上で見ると、帯広市、釧路市、北見市、この次が中標津町である。これは一次産業で生まれたお金を、中標津町で消費できるということであり、お金を循環するという意味で非常にいいパターンが出来上がっていると思う。

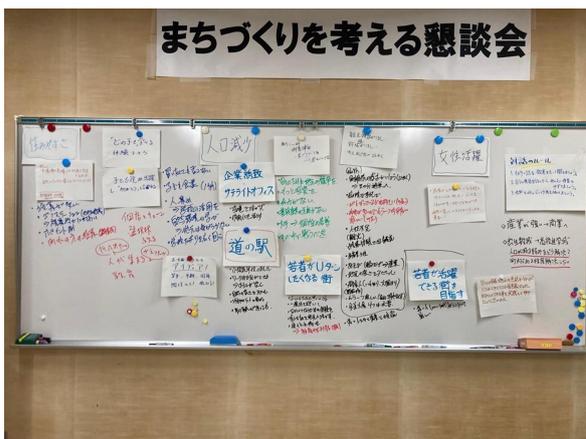
### ○中標津町の弱み

- ・人口減少。20歳代から30歳代の男性女性が3千人前後、出生数は250人前後でそれぞれ推移してきたが、平成20年頃を過ぎたあたりから徐々に少なくなっており、出生数は平成29年に200人を切り、令和4年は138人、令和5年は110人となった。  
その要因は女性の人数の減少にあり、女性の高学歴化により都会に出ていった女性が地方へ帰ってこないというものと推測される。また、地方では女性の給料は男性の給料の7割だと新聞記事に出ていたが、地方に女性が戻ってこない一つの原因と言われている。
- ・根室管内4町において、今年高校に入学した生徒は平成20年に生まれた子どもで全体で492人だったのが、実際に高校に入学したのは324人であり、率にすると0.659になる。この率の5年平均を用いて、令和5年に生まれた管内の子ども223人が令和21年に何人くらい高校に入学するのか予想してみたところ153人となった。平成29年度の461人と比べると実に3分の1の人数である。このことは全国的な傾向である。  
管内の高校は6つあるので、単純計算で1校あたりは25人になり、これではやっていけないと考えられる。

○このようなことに対しどのように対峙し、「住みやすさNo.1のまち」すなわちバランスの良いまちをどう追及するか、また「持続可能なまち」「中標津らしくしっかりとしたまち」をどう維持していくかについて、皆様の忌憚のないご意見を聞かせていただきたい。

## 流れ2. ワークショップ

ワークショップでは、町長があいさつで触れたテーマも踏まえながら、まずは参加者のみなさんが「今日一番話したいこと」を紙に書いてもらいました。その後、1人ずつ紙に書いた意見を発表しながら、関連する意見のある人にも発言してもらい、それらに対し町長・副町長、教育長からお答えさせていただきました。



みなさんからの意見はグラフィッカーにより文字として見える化され、前方に貼り出しながら懇談会を行いました。

ほかにも行政への意見だけでなく、自分や自分の周りの状況など自由に話をさせていただきました。最後に参加した感想を発表してもらい、町長、副町長、教育長からも感想を述べて閉会となりました。

## ● 懇談会の内容

懇談会の意見交換の内容について、その概要をまとめました。

**・総合文化会館** 令和6年11月22日（金）13:30～ 参加者5名

【町参加者】 町長・副町長・教育長・総務部長・政策推進課長・政策推進課主幹  
・協働推進係

### 【「どの子ども」学べる 体験できる】

#### 【子どもたちが活躍し、「ありがとう」と言われる】

- 例えばイベントがあっても行ける子と行けない子があるので、どの子ども学べたり体験できたりするまちになればいい。
- 子どもたちがちょっと活躍出来たら「ありがとう」や「助かった」と言われて、子どもたちのやる気がアップするようなまちになればいい。
- コーラス（合唱部）は、実際には親が仕事を休んで付き添いに行くなどで大変な思いをしていると聞いているが、すばらしく、毎年感動している。
- 「子ども食堂」は中標津町にあるのか。
- 「子ども食堂」を手伝いたいという場合、どこに相談すればよいか。
- 何かをしようとした場合、人を集めるのは大変である。しかし、学校は大勢の子どもが集まって来るところなので、学校を訪れて子どもたちと話をするだけでも、子どもたちは学べるしお互いにいいものを得ることができる。そのような良いマッチングができないものかと思っている。もっと学校を活用してほしい。
- 地元の人たちは気が付かないが、中標津町には自然環境の学びの場が多くある。
- 「学校だより」を、もっと広く回覧してはどうか。

**本間ファシリテーター**

子ども食堂については、町内に1ヶ所あり、ボランティア団体が運営しています。

**教育長**

子ども食堂を手伝いたい等の希望があれば、高橋教育委員が「子ども食堂」の代表を務めているので、教育委員会に相談していただいても連絡をとることは可能です。

### 【新しい中標津を見つける力をつける】

- もっと地元の中で競争をするようなまちであってほしい。
- 地元業者は、もっと踏ん張るべき、もっと投資すべき。

- 投資したいと思う人がいても、先立つものがない、余力がないのでは。
- 基幹産業である一次産業の元気がない。
- 町外の大手やフランチャイズが入ってきている。
- 大手が入って来ても、地元はもっと大胆に戦うべき。

#### 【観光施設がほしい】

- 観光施設は、岩手県の小岩井農場のような農業体験ができる施設をイメージしている。
- 子どもたちは胴付長靴を履いて、昆布を採っている竿を持っているだけで喜ぶ。これが船に乗って写真を撮れば親も喜ぶ。漁師の人たちには当たり前過ぎて、それが観光になるとは思いもよらないものであるが、そのような日常的なものに実はバズる要素があるのでと考える。
- 都会人に広い畑を見せて、「芋や大根を、好きなだけ採っていい」と言ったらとても喜ぶ。そこで、観光客には芋掘りや大根掘りという大変な農作業をしていただいて喜んでもらい、こちらも助かるというような、そんなことを考えて行けばいいのでは。
- インバウンドでは、例えば日本の地方の片田舎に行って、おばあさんに漬物の漬け方や畑仕事を教わるというのが新鮮だという。そういうことにアンテナを広げておくことが必要なのかもしれない。

#### 【野球場がほしい】

- 標津町と羅臼町の野球場について、この2年位でやめるという話がある。全道大会を開催する場合、北海道各地で割り振っているが、4つの球場を使うので現在は4町で担っている。それが、2つの球場がなくなると全道大会ができなくなる可能性がある。そこで、もう一つ野球場を作っていただきたいというものである。

町：標津町と羅臼町の情報について把握していなかったため、今後情報収集していくこととする。

#### 【町立病院の改革】

- 町立病院に町から毎年何億円位使っているのか。
- 例えば12億円が半額になれば、観光施設や野球場も作れると思う。
- 12億円が半分になると、今後高齢者が多くなる中、住民の負担も増えるのでは。
- 昔厚生病院にするという話もあったが、委託やフランチャイズにするという方法もある。
- 今、町立病院の外来患者は平均でどの位いるか。

●外来患者の一人当たりの単価はどの位になるか。

町長

12 億円位を町から町立病院へ繰り出しています。

町立病院は 8 億円位の町からの繰り出しで推移していましたが、スタッフ不足により 4 つある病棟のうち 4 階病棟の一つを閉め、現在は 3 / 4 で運営している状況です。

このため、町立病院としても、コンサルに委託したり、コロナ過の補助金を有効に使ったりするなどして、かなり赤字幅を減らせた経緯があります。

現在においても、入院患者の調整を図りながら頑張っていますが、さらに赤字幅を減らすのは現状では難しい状況にあると考えています。

それ以外の収入ということでは、ふるさと納税があるので、それを活用していければと考えています。

外来患者の 35%位は町外からです。

外来患者が多いと、入院患者を診ることも難しくなるので、町内にもう一つ内科の医院があればと思います。

副町長

町立病院の外来患者は、1 日平均 550 人位です。

正直に申し上げますと、お医者さんたちは色々なところに手が回らない状態になっています。この位の規模の病院で 1 日 550 人もの患者を診るとするのは、本当に大変なことです。

総務部長

外来患者の一人当たりの単価は、自己負担分ではなく 10 割負担分として一人約 9 千円です。入院は約 4 万 5 千円になります。

【中標津の素晴らしさを町民で共有できれば】

- 現実的な問題でゴミの不法投棄が多い。道路の側溝に、冷蔵庫や展示会の花束などがそのまま、平気で捨ててあった。これだけ自然が美しいのに残念である。
- 徳島県の上勝町では、ゴミ分別を一カ所に集めて細かく分別したり、生ごみを飼料化したりするなどの取組で全国からあまりにも視察に訪れる人が多いのでホテルをつくったという。また、飼料化による循環、ごみのポイント制なども非常によい取り組みだと思う。

教育長

不法投棄については、町外の人が、わざわざ投棄するためにやってくるという話を聞いています。

## 【企業誘致・サテライトオフィス】

### 【道の駅】

#### 【若者がUターンしたくなる街】

- 中標津町は、町単位で考えれば非常に住みやすいまちだと思う。
- 中標津町は空港の利便性が高く、自宅から空港に向って1時間もすれば空を飛んでいるというそんな地域は非常に少ないので、サテライト方式でいいからもっと企業誘致して機能を少し分けてもらいたい。まずは、中標津にお金を集めるということが必要だと思う。
- 若者が出ていくのは仕方ない、むしろ逆に一度出て行ってほしい。そこで、帰ってきたくなるような体験を子どもの頃からしてもらう。まちづくりの活動を子どものころから携わってもらって、何か一つでも形になると自分のまちに対する思い出ができる、そのような活動ができてくれればいい。
- これからは自然を散策するとか野鳥を観るといった長期滞在型の観光をターゲットとし、中標津に泊まってもらって根室や羅臼に行くといった情報の発信拠点となれば、中標津自体に観光地はなくとも成り立っていけるのでは。その情報発信の場として「道の駅」があればいいと思う。
- 若者がUターンするという事は、一度外に出て行って色々な経験を積み、それら学んできたことを自分のまちで活かせるという事が一番大きいのでは。  
若者が自分で積んだ知識とかアイデアを持ってきてくれて、それを活かせる、あるいはバックアップしてくれれば戻ってきたいという気持ちになるのではと思う。

### 教育長

若者を受け入れる場所はいくらでもあるのではないかと考えています。

しかし、若者は、地元で働ける場所はたくさんあるのに、都会に憧れて、都会の楽しさを求めてしまいます。

そういう子どもたちを引き戻すべく、教育現場では常に心がけて子どもたちと接していますが、現実はなかなか難しい状況です。

### 【感想】

- このまちがどのように変わっていても、中心市街地が成り立っているまちであってほしいと感じている。3期目となる町長に期待する。
- 「道の駅巡り」をしている人は多くいるので、私も「道の駅」がほしいと思った。また、この地域はビジネスチャンスが高い地域だと思っているので、若い人たちには「中標津は商売に適したまちだ」とわかってほしい。
- 私は「正論を超えるアイデア!」と思った。

アイディアのいいところは、性別や年齢、国籍など関係なく出せるものであり、何がヒットするかわからない。そして、なんといってもお金がかからないところがいい。そしてそこからお金が得られるというような発想が、もっとたくさんあるまちになってほしい。「道の駅」は全国どこにもあるが、例えば、「牛の駅」があってそこに人がお邪魔させてもらおうという「えっ、どんなところ？」となる。そんな面白いアイディアを出し合っていたら、どこかでヒットするかもしれない。

- 私は「若者が活躍できる街を目指す」と書いたのですが、私は44歳でもう若者ではない。そこで、この懇談会には20歳代や30歳代、子育て世代の女性に足を運んでいただければ、もっといい話し合いになるし、まちづくりにつながっていくと感じたので、声掛けを頑張りたいと思った。
- 基本的に若者がUターンできるまちというのは、町民にとって暮らしやすいまちであり、自然・暮らし・文化のバランスが取れたまちづくりに向かって一つ一つ進んでいけばいいのではと思った。

#### 教育長

皆さんの多様な意見が聴けて有意義と感じました。自分としてできること、教育委員会としてできることを教育現場で考え実践していきたいと思います。

#### 副町長

皆さんの斬新な意見をいただき色々と考えさせてもらいました。中には難しい問題もあるかと思いますが、若者が帰ってくるまちづくりを進めていきたいので、今後も意見やアイディアをよろしくお願いします。

#### 町長

人が減っていくというのを補うという要素として、人を集めるという機能をさらに追及していかなければなりません。その点「道の駅」というのは、人を集めるという意味では非常にいい発想だと思います。以前は「(道の駅は) いない」と考えていましたが、最近は「やろうかな」と思えてきました。人を集めるという意識はもっと膨らませなければならぬと考えています。

中標津に大きな店やフランチャイズの店が来てくれていますが、人を集めてくれるという意味では、それらのお店は重要な役割を果たしています。

それらのお店の他に小さなお店があるというのは、選択肢が増えていると考えるべきです。集客力のあるどんなに美味しい店であっても、ずっと行くと飽きてしまいます。2件あれば交互に行くことができるという楽しみがあります。このように選択肢があるというのは、中標津のいいところであり、そういう面は意識したいと思います。

そういう意味では、中標津は小さな町ではあるが、他の町から比べて色々な部分で洗練されたまちになっているといえるのではないかと思います。

人の集まる要素としての「楽しむところ」、「買い物をするところ」、「食べるところ」、「空

港など交通の便の良いところ」を供与しながらバランスのいいまちを目指したいと思えます。さらにプラスアルファとして、それを支える教育や医療をしっかりと、すでに住んでいる人には「ここがいいな」と思えるところ、町外の人には「住んでみたいな」と思えるところ、町外に出た人には「帰ってきたいな」と思えるところを目指していきたいと思えます。そのための意見やアドバイス等、今後もお力添えをお願いします。

・総合文化会館 令和6年11月22日(金) 19:30～ 参加者3名

【町参加者】町長・副町長・教育長・総務部長・政策推進課主幹・協働推進係  
・企画調整係

### 【メガソーラーについて】

● 俵橋の土地約30町、東京ドーム6個分の土地にメガソーラーを建設する計画があり、11月18日に施工関係業者から周辺地域の住民に対し説明会があった。

私を含め地元住民の多くは酪農を営んでおり、メガソーラー建設のための森林伐採による景観の悪化、生態系の崩壊や土砂災害などの環境破壊の懸念があり、説明会に訪れた住民は皆建設に反対である。

土地は、雑種地で標津町の方が所有していたため、既にメガソーラーの会社に売買したという。

町として、何らかの規制はできないか。

● 私はそもそもソーラーパネルには反対である。理由はソーラーパネルを設置してしまうとその土地がその後利用できなくなるからである。全国各地で設置され始めたころは「ソーラーパネルはいい」と大変盛り上がっていた。しかし、この数年は「景観が損なわれる」と言われ始めた。私にとっては「今頃何を言っている。もとよりわかっていたこと。」と思っている。

土地があれば、ソーラーパネルを設置したいという人は出てくるので、町としてどうしたらいいのか根拠を押しえておいた方がいいと考える。

● 過疎認定は、何人になったら認められるのか。

● ソーラーパネルに対し増税してはいかがか。

### 町長

このメガソーラーの計画について、町には情報は入っていないため知りませんでした。ただ、町で規制するには何らかの根拠が必要となります。

### 教育長

教育委員会には土地開発の関係で、「この土地に遺跡があるでしょうか」と問い合わせってくる件数はけっこうありますが、この件に関してはどうだったか確認してみないとわかりません。

### 副町長

過疎認定は、何人になったらということではなく、過去の人数と比べて人口減少率が一定のパーセントになると過疎の指定が受けられるというものです。

この地域で過疎の指定を受けていないのは中標津町くらいです。

ソーラーパネルは、固定資産税の償却資産として課税されますが、その税率を町で変えることはできません。自然環境エネルギーは、むしろ優遇すべきという流れになっています。

### 【中標津の特色は何ですか】

- 計根別学園の中学生では、「中標津で何をしたらよくなるか」について話し合うそうであるが、そこでは毎年「牛乳」の話しか出てこないという。  
そこで、計根別学園のある生徒から私に同じ質問をされた。中標津が良くなるということは、この地域が活性化するという事だと考えたが、その時、私には思い浮かばなかった。  
私は、実家が農家であったが父親や周りの人が「農家は大変だ」という話を聞いて育ってきたため農家を継がなかった。  
私としては、中標津で「いいなあ」と思っていることは、農家の人がそれぞれ個別に売り出していること。これは別海にないすごいところだと考えている。  
また、計根別の畜産食品加工センターでのソーセージや加工肉などは、もっと打ち出していいのでは。別海を含めこの地域では肉食的なものは少ないので、「中標津牛」とかブランド化していけば面白いのでは。  
ジャガイモもいいが、流通量が少ない。
- ジャガイモ伯爵まつりでは、内地の私の弟がはるばる来て、会場に向かったが、道路の渋滞がひどくて諦めて帰って行った。あれはもったいないので、改善してほしい。
- 中標津の特色として開陽台もあるが、もっとインターネットやYouTubeなどでアピールすべき。
- 私はランニングやトライアスロンをしているので、ランニングや自転車で開陽台へも行くが、道が良くないのでなかなか難しい。「開陽台はいいですよ」と言われても、「中標津は道が悪くて走りづらい」という結果にたどり着いてしまう。  
ただ全体的にレベルアップすればいいのになあと思うところだが、お金のかかることなので、強くは言えない。
- 私は観光よりも町のサービスにどう還元するのかということに行きついてもらえたらいいと思っている。  
それがインフラや全体的なサービスの向上につながれば、もっと住みやすいまちにつながってくるのでは。  
ただ、それらも結局体力がなければそちらに回せないのが、難しいことではある。
- 中標津町のふるさと納税はどの位か。
- 別海町のふるさと納税は140億円である。その半分は返礼品に充てられ、残りの半分は町に入るという仕組みになっているはず。やはり海産物は強い。
- 「知床」というネームは強い。知床ナンバーが憧れのナンバーという話も聞く。
- 私の望みとしては、「中標津と言ったらこれだよね」というものがあってほしい。そこを目指していただきたい。
- 標津町で、宅地が無料という施策をしているが、中標津町ではそういうことはどうか。
- 「移住」において別海町では、地域おこし協力隊が37名もいて、色々な地域から来る

て住んでもらい、気に入っていただいたら残ってもらうという取り組みをしている。  
まだ募集をかけているので全部で50人位募集していることになる。ただ、これもお金が  
あってこそ取組だと思う。

#### 町長

観光については、例えば阿寒やウトロのような大規模の宿泊施設があればいいですが、中標津町にはそれがありません。したがって、ひとつの町でというよりも、滞在時間をいかに長くするかを考えています。滞在時間が長くなれば、食事もするし宿泊にもつながります。

実際に中標津町に3泊するかと言ったら、そうはなりません。1泊でもいい、それも中標津町でなくても、別海町や標津町や羅臼町であってもいいと思います。それぞれがうまく磨きをかけていって、それぞれに滞在してくれればいいと考えています。

中標津町には商業力があります。周囲からお客さんが来てくれます。周辺町のパワーの上で、中標津の存在感を出していくことが大切であると考えています。

先日全国町村会の会議に出席し、座っていた席の周辺には九州の町村がずらーっと並んでいましたが、知っている町は高千穂町だけでした。逆に九州の人たちにとっては、北海道の中標津町を知っている人はいないと思います。

しかし、摩周湖・阿寒湖・知床は誰もが知っています。それがどこの町にあるのかは、知らないと思います。したがって、ポイントをそれぞれの町で磨きながら、出てきたものをうまく分散して、中標津の魅力を高めるといふ形をとれるのが一番いい方法だと考えています。

中標津町の財政推計を見てみると、農林業費とか建設費はあまり変わっていませんが、福祉系の費用がかなり上がっています。それは日本全体のことであり、いいことなのですが、収入がそれに追いついていないという現状です。

移住の取り組みをしましたが、「移住」というのは全て揃えなければならないので、ハードルが高いです。それであれば、長期滞在の居住、その前段として観光として考えた方が、来やすいいいのではと考えています。

#### 総務部長

中標津町のふるさと納税は約1億2千万円です。

#### 【ボランティアで働く機会があればいい】

- 例えばふるさと納税のスペシャリストがボランティアでお手伝いをしたいという希望者はいるはず。また、羽田中標津便を1日2便にするためだけに特化したボランティアチームとか考えられる。
- 福祉は、よくボランティアと言われる。私は子どものデイサービスをしているが、それに基づいた制度で児童発達支援管理責任者（児発管）や保育士2名を置きたいわばスペシャリスト集団で運営している。このため目的のはっきりしない人がこの中に入ってこら

れてもなかなか難しい。

ただ、これが体験という形で呼ぶということで「大人版キッズニア」のようなものであれば、若者たちに受け入れやすいかもしれない。

- 町内会の隣組長は順番に担っている場合が多く、中にはしづしづ引き受けている人がいるが、その中であって周囲から「この人しかいない」ということで熱量高く取り組んでいる人もいます。そういう人が適材適所で町の中で活躍できる仕組みがあったらいいと思っている。  
役場のそれぞれの部署で、必要があれば「このような人、手伝ってくれませんか」とお願いできるような仕組みがあればいい。
- PTAについては、全国的に問題化したが、中標津は下校時に立っていて、しっかりしているように見えるがいかが。
- 主体性のある人は、だまってでも参加してくれるが、「ちょっと自分からは」と思っている人でも募集していたら「自分でも力になれるのでは」と考え参加してくれることもあるのでは。お金をかけないで、困り事一つ一つに対して手伝ってもらおうという仕組みを作ればいいと思う。

#### 総務部長

学校の中には学校ボランティアがあります。町民の持つ色々な特技やノウハウを活かせる分野は、役場の福祉やその他の分野でもあると思います。それらがうまくマッチングする機能があれば助かると思います。そのためには、保険をどうするかとか最低限の体制を整えなければならぬと考えます。

#### 本間ファシリテーター

東小学校で「東っ子サポーター」という組織を作ったが、教育委員会に保険をかけてもらって、報酬なしで調理実習等を伝ってもらっています。

#### 教育長

下校時の見守り等、コミュニティスクール制度という地域と学校が一体となって学校づくりを進めるという制度がうまく機能しています。東小学校の例のほか、丸山小学校は図書館運営においてボランティアのお母さんたちが学校に来てくれて先生方と一緒に作業したり、計根別学園でも地域の人たちが下支えしてくれたりしていい感じになっています。

#### 【人口減少等について】

- 地域の人が減るとするのは、仕方のないことである。私が中学生や高校時代は、他の地域の高校に入るのはハンディが大変だったが、今はそれがかなり緩和されたことにより、「どんどん出て行ってもいいよ」ということになった。そうなると、札幌や東京に進学や就職するという選択肢が増えるとともに出て行きやすくなる。そういう仕組みにしてし

まった以上、仕方ないというところはある。

高校生に聞いたら「地元がいい」という意見はあるが、実際に出たらそこが「都」になって、そこで働きたいということになる。

札幌や都会に住んでいたら、なかなか遊べないという話を聞くが、私は札幌や都会は遊べる場所であってほしいと思っている。

- 札幌や都会は、たまに行くからいい。
- 消防団の問題もある。ただ、実際に自分ができるかという、仕事している最中に出ていくことはできない。そこがネックになる。

#### 町長

人口減少が続くと、大きな災害に遭った場合、自助・共助ができなくなると大学の先生が話していました。

警察官・消防士・自衛隊員は日本の国籍を持っていないとなれませんが、こんなに人が減ってきたらどうなっていくのか問題になってくるのではないかと思います。

公助に頼るといっても、役場の職員も現実的に少なくなっており、今後やっていけるのかと心配に思っています。

#### 【感想】

- いろいろな意見を述べるができる場になったと思った。  
中標津町にいてもいろいろな熱量があるので、例えば今日と同じような話を職場でしても、「そうですね」で終わってしまう。  
それに組み込んでくるような人はなかなかいなかったの、「こういう意見もあるのか」「考えたこともなかった」と感じる事ができたのが良かった。
- もっとたくさんの方がいて、活発な意見が交わされているとイメージしていた。  
町民の意識の低さにガッカリした。
- 「中標津の特色は何ですか」ということに対しどんどん意見が出てきたが、これを町民の22,000人にアンケートしたら、どういう結果になるのか見てみたいと思った。

#### 教育長

今日は、前向きな姿勢で、我々公務員には考えつかないような視点から柔軟な発想をいただき、とても勉強になりました。

#### 副町長

我々が気づかない視点で、色々なことを見ておられることに気づかされました。中には、「こんなことも、やっていただける部分がかも」という気づきもありました。

今日はこのように建設的で皆さんのまちづくりに対する思いを聴くことができ、楽しく

過ごさせていただきました。

**町長**

お互いがぶつかり合うのではなく、同じ方向を向いて「どうしたら解決できるか」を一緒に考えようということで進めるようになってきたと思います。

今日は、建設的な色々な意見をいただき、中には反省もあるし、逆に「よし！」と思った部分もありました。どうもありがとうございました。

・計根別交流センター 令和6年12月6日（金）19:30～ 参加者14名（議長も参加）

【町参加者】町長・副町長・教育長・総務部長・政策推進課長・政策推進課主幹  
・協働推進係・計根別支所長・計根別支所管理係

#### 【農業試験場の用地について】

- 東武の斜め前に農業試験場の用地がある。北海道の土地なので、町でこれを購入することはできないか。用地を利用し「道の駅」、農業高校による花販売やレストランを作る他に、民間の大型ストアに賃借するとよいのでは。  
関係者から聞いたが、研究に使っているはいるといっても、そのほとんどは使っていない。大型店が進出するには、そこしかない。

#### 町長

農業試験場の土地は、魅力的な土地であることには間違いありません。

現在は採草地として利用しており、農業試験場がどのように考えているのか最終的な確認はとっていません。

将来的には、話していかなければならないと考えています。

#### 【中標津町の魅力発信を】

- 私は東京から中標津町に移住して10年になる。中標津・計根別が住めば住むほど好きである。この魅力を地元の人、外の人も知らない。内部からPRしてもその魅力を感じていないので、地域おこし協力隊を増やして発信していただきたい。
- 幼稚園から高校まで連携しているところなど、計根別でという発信も欲しい。また、地域留学や山村留学の受け入れもできたらいいと思う。
- 地域の発信ということで一言ある。中標津牛乳を使ってとてもおいしいソフトクリームを作り、札幌市と東京の立川市と中目黒に店を出している方がいる。そこで、私は町のふるさと納税の担当にこの話をしてきたところである。  
また、東京の蕎麦屋さんで、中標津のそば粉を使っているお店が何店舗かあるという話を聞いた。そのようなことを町は把握しておいた方が良く思う。
- 釧路からの帰り道に、かや沼の「ぼん・ぼんゆ」へ寄った。ここでは、牛乳に氷を細かく砕いて混ぜた「フローズイン・ドリンク」が無料で提供されており、とてもおいしかった。中標津にも宿泊施設がたくさんあるので、中標津牛乳の宣伝効果を高めればいいのではと思った。  
また、中標津の弱いところはお土産がないということ。中標津で持っていくとすれば、標津羊羹があるが重たい。そこで、もっと軽くてポンと持っていけるようなお土産があればいいということで、企業の開発のための予算を出せばいいと思う。

#### 教育長

計根別学園は年に一回修学旅行で「計根別アピール」をしています。その際に、農業高校の製品を配っています。

また、来年（令和7年）の5月に全国町村教育長会議があり、私は北海道代表として発表することになっています。計根別学園をメインにして、計根別・中標津のことを話そうと考えています。

移住された方や他の町から来られた方の多くは、中標津町のことを好意的にとらえてくださる。別海町の海辺にはオジロワシ、白鳥、丹頂などがいるが、中標津町もちょっと街を離れると白鳥や丹頂、その他野鳥がたくさんいてとってもいいところです。

それらについて移住された方々から町へ言っていただいて、我々が発信するということが位置付けていければいいと思います。

地域留学や山村留学については、即答で「はい、やります」ということにはなりません、検討はしたいと思います。

#### 副町長

役場ではコロナの時期から、町の地場産品を使った新商品開発に対して50万円の補助金を用意し受付けています。これは今あるもののパッケージを替えるとかセットにするというものも対象にしています。

ただし、「物を作るのに機械を設備したいので、数百万円ほしい」というところまでは対象としていません。

#### 【活気のあるまちにしたい】

##### ●今日、計根別学園の（9年生による）卒論発表会があった。

その中で、人との交流の場が少ないという生徒が多かった。交流センターや正美公園を交流の場として利用するという案があったが、それらについて話し合っ実現させてほしいと思った。

##### ●農業高校があるので、帰りに立ち寄れるような、お茶とか飲めるようなお店がほしい。

##### ●バスの時間まで居ることのできる場所がほしい。

##### ●喫茶店。

##### ●バスの待合所はあるが、もっと過ごしやすい空間がいい。お焼きのようなものがあれば。

●私は計根別に食堂を作りたいという気持ちはある。そこで女性の方の働く場として、平日の営業形態でお母さん方で回していけるような体制で、例えば時間帯でたい焼きとかも出すことができればいいのかと考えている。そのように、子どもたちが迎えに来るお母さん方を待つのに使えるような場所づくりというのを、どうにかここ1・2年の間にできたらなあと考えている。

場所については、農業高校と計根別学園が街の反対側にあるので、利便性のいい場所と

というのは難しいが、計根別でご飯を食べられたり、井戸端会議に使えるような場所を考えているので、素晴らしい意見をいただけたらありがたい。

- 道の駅は、色々なところにあり人がけっこう寄る施設である。本当は計根別に「道の駅」と言いたいところだが、この交流センターは避難場所になっているので、例えば「まちの駅」と言い換えてもいいので管理人を置くなど、この施設を核に町で計画をまとめていただければありがたい。
- 昔、中標津町の人口が1万人位の時の方が、もっと活気があり、もっと盛り上がっていたような気がする。なぜだろうか。
- 受け身の人が多いのでは。昔のお祭りなどは、みんなで作り上げていたものが、いつの間にかお任せになって、楽しんではお金を支払って済ませるといふようになったのでは。
- 昔は遊ぶところがなかったので、自分たちで楽しんだのかもしれない。
- 計根別のお祭りは、人がいなくなって大変である。みんなで出て、やっとこれまでにしている。昔は、一部の人がやっても盛り上がった。
- お祭りについて、活気がなくなるというのは大人が一つの原因なのでは。自分たちの負担を減らすためにやめようという判断が非常に多くなっている。  
お神輿を担ぐのが大変だからやめましょうというのがどこの地域でも増えている。例えば標津町では神社祭もなくなっているという現実もある。なので、大人たちががんばって、子どもたちに伝統と文化を伝えていくというのが大事なのでは。  
計根別も高齢化が進み、お神輿をかつぐ人が減って大変な状態にあるが、お神輿をかついでいる地域や参加できる地域が非常に少なくなっている中、逆にメリットとして「計根別に来たら、お神輿をかつげます」という位な勢いでやっていくのも、そこに興味をもってくれる人がいるのではと思っているので、頑張っておきたい。
- 明治乳業の工場が完成したら、職員をはじめ関連する人が計根別に住もうと思う人も増えてくると思われる。そうすれば、少しは活気が出てくるのでは。
- 若い人がだんだんいなくなって、お神輿やお祭りはいつも同じ人がやっている。もっと若い人を集められるような取り組みが必要では。  
例えば先ほどの「道の駅」もいいし、計根別には幼稚園から高校まであるので、話は大きくなるが大学の誘致をしてもいいのではという気持ちがある。  
問題は計根別に働いていてもここには住んでくれないこと。  
明治の話もありましたが、現在明治の工場は西春別にあり大半通っている職員ばかりなので、ここに工場ができて少しは出入りがあるとは思いますが、本当に住んでくれるために何かを考えなければならないのでは。
- 人がいい。何もないところがいい。何でもできるし、縛られるものもない。田舎のしがらみのようなものもない。
- 私は養老牛に住んでいる。計根別の人や郡部の人には行事に参加する機会はそんなにない。それは仕方のないことだと思っている。

養老牛では、それまでやってきた盆踊りも、人力不足から準備ができずやめた。

しかし、学校がなくなり行事もなくなるとさびしい。8月のお盆の時期には、この地域を出て行った人が帰ってくる。そこで、「帰ってくる人たちやその子どもたちを迎えるために何かやらないか」と若い人たちに声をかけたら「やりたい」と答えてくれた。

そして、「夏祭り」と題して、若いお父さんとお母さんによる「ヨーヨー釣り」や「たい焼き」などの出店を出し、テントで焼肉を焼いたり、花火も上げた。年に一度の行事ではあるが活気があり、外からくる人たちから「すごいね」と言っていただき、うれしかった。そういう力・パワーをうまく使うことができればと思っている。

- 若い人が住みやすいまちというのであれば、子育て支援等の事業が考えられるが、結局は町のお金のかかることなので、例えば計根別地域のように中標津全域をゴミステーション化して、ゴミの収集費用を浮かした分をそういう事業に充てるということをしなれないと思っている。

町民は他人事で「行政は行政でやってください」というような人が多い。しかし、自分らがせっかく住んでいるまちなだから、住みやすいまちにするためにどうしたらいいかを町民も考えられるような方策を町で考えていかないと、「なぜ町はやらないんだ」という住民ばかりになってしまうような気がして心配である。

- 私が求めるのは「遊べるまちづくり」ということで、子ども・大人・女性等色々な方が遊べる公園があればいいと考えている。中標津には「ゆめの森公園」があり計根別からも利用しているが、それが計根別にあれば中標津から計根別に人が来ることになり、さらに冒頭の町長の話にあった50km圏内からも人が呼べる。まずは、人を呼べるということが第一ということで公園を作っていただきたいと思った。

- 私も公園を作ってほしいと思っている。ちなみに隣に座っている方は「継続的发展、人口増加」と書いていて、これは計根別が今後残っていくには人口が必要とということを書いてくれたものと思われるが、計根別は少し前まで消滅可能性都市として、私が生きている間には消滅してしまうのではないかと心配していたが、明治さんをきっかけに生き残れるポテンシャルが生まれたと思っている。

まずは、どれだけの人が計根別に住んでくれるのかである。それには、「子どもに優しいまち」「おとり寄りに優しいまち」にならなければいけない。中標津もその意味ではいいまちであると思われるが、それ以上に計根別がいいまちになると、どんどんと人が住んでくれるのでは。

明治の工場は、西春別工場と本別工場が合体して計根別工場になるということで、外から入ってくる人はもちろんゼロではないが、その人たちがどこに住むかということになると、それが中標津に住みたいのか、計根別工場に近いところに住みたいのかである。そこで、住宅の整備が必要となるので、元雪印工場の住宅跡地を宅地として使えるように造成してもらえればと思っている。

そして公園がほしい。子どもが遊べる場所というだけでなく、お年寄りが散歩の時にち

よっとベンチで休めるような「憩いの場」であり、高校生がバスを待つ間に楽しい話ができるような世代交流の場としてなくてはならないものとする。

明治さんが入ってきて、町に入る税金も上がると思われるので、その分を計根別の公園の資金に充てていただきたい。

- 公園が作られるのであれば、街中がよく、例えば計根別小学校跡が望ましい。

今日行われた計根別学園9年生の卒論発表会において、正美公園のことを話題にしていた生徒が複数いた。

生徒らが幼稚園の頃は、正美公園を庭のように遊んでいたところだったので、生徒らにとっては思い出深い場所なのだと思う。

このため、その後遊具やその他の施設が老朽化し使えなくなってしまったことで寂しさがあるのか、正美公園を直してそこで他のところから人が来てくれるようなイベントができればと生徒たちから発表があって、私も「そうだな」と聞いていた。

ただ、整備するにしても、正美公園と新たな公園両方ともということにはならないと思う。

また、計根別学園のブランコは12歳までという制限があるが、大人でもブランコに乗りたいと思う時があるので、私は大人用のブランコも整備してほしい。

#### 教育長

遊びの体形が変わってしまったのではないだろうか。昔の若い人たちは、集まったらボウリングに行くとか、飲みに行くとか、麻雀するとかだったが、今は人と人との交流が自体が減ってきているのではないだろうか。

#### 町長

ゴミステーションは、計根別と白樺町内会で実施しています。ゴミ収集に携わる職員の負担軽減やステーション化するとまちがきれいになるというメリットがありますが、他の町内会はゴミステーション化にはあまり乗り気ではないように思います。

高校生が集まれる場所ということで、昔は喫茶店が街中にたくさんあり、分散してあったので高校生の隠れ家的な役割をしていました。そういうところも、すごく大切だと思います。

計根別というまちをどうするかについては、個性的な部分が必要だということで、そのためには若い人と女性が中心になって考えていければいいと思いました。養老牛の夏祭りに参加させていただきましたが、若い人が一生懸命に頑張ってヨーヨー釣りや綿菓子作りなどをしていました。大人たちは、若い人に任せるところは任せるといって、温かい目で見守って盛り上げてもらうということも大切です。頑張る若者に女性が加われば怖いものなしなので、そういうまちづくりを目指していただければいいと思います。

せっかくこのように「あれをやったらどうか」とか「これをやったらどうか」とか盛り上がっているのだから、計根別地域で振興計画みたいなものを作ってはどうでしょうか。

今回出たこと、例えば高校生のたまり場所を作るとかを含めて「このようなまちづくりに

したい」というものをまとめれば、面白い話になるのではという気がしました。

それができたから「いますぐにやる、やらない」というものではありませんが、そういうものができれば、ひとつのパワーになるのではと思いました。

以前、農業整備モデル事業があり、施設や道路などを作ったことがありました。全部町のお金だけでやることは難しいので、そのような制度もうまく使いながら進めていけないかなと思いました。

#### 議長

計根別に「22会（に一にかい）」という年配の方々の集まりがありましたが、これを解散して細谷さんと農協の金野さんを中心に「計根別未来塾」という会を立ち上げました。これまで皆さんが話した内容を含めた中での事業展開をしていかなければと考えます。

今日、計根別学園でふるさと活性化卒業論文発表会があり参観しました。15名の生徒から自分の思いを話されていた中で、地元の主産である牛乳を使った商品開発をしてふるさとに貢献したいという生徒がいました。それらを何らかの形で実現させてやりたいと考えた時、生徒のたまり場・居場所づくりはそれらにつながっていくことだと思えますし、また、大人がそれに関わりの持てる地域になれる可能性が非常に高いという印象を持ちました。

私が農協の役員時代の話で、島根県の小さな農協の婦人部の方々が「おはぎ」を販売して地域貢献したというひとつの例がありますので、子ども大人も関りを持てるようなことを地元でもやっていければなと思えますし、計根別振興計画にも携わらせていただければと思います。

#### 【感想】

- 地域を考えるいい機会になった。できればもっと多くの人に参加できるように周知方法を考えていただきたい。
- 参加者それぞれにまちづくりに対する考え方があるのだなと思った。いい機会だった。
- 色々な話が出ていたが、それらをまとめて引っ張ってくれる人を期待している。
- 「ほっこりカフェ」と書いたのが、気軽に話ができる場ということで、提供するものを作るとなると大変なので、インスタントでもいいからまずは始めるというのが大事なのかなと思った。
- 色々な話が出てきたので、「公園」とか「カフェ」とかの的を絞って深く話したら、もっと楽しい意見が出るのかなと思った。
- 私は初めての参加で聞いているだけにしようと思っていたが、自分に手伝えることがあれば参加したいと思った。
- お年寄りに頼まれたことがあって、病院に行くバスがとても不便とのことを言われた。帰りが遅くて大変だとのこと。
- 顔を知っている方が多かったので、話しやすい会だった。もっと若い人が参加してくれ

て、年代ごとに意見をパスして何かゴールできたらいいと思った。

- 正美公園のイベントは個人的にやりたいとっていて、幼稚園と学校とまとまってやれば、思い出の場所にもなるし思い入れがある場所なので楽しくできるのではと思った。
- 各年代によって、また男性女性によってもそれぞれ意見や考え方が異なるが、もう少し女性の意見を反映していければいいと思った。
- 皆さんの考えを聞けるいい機会だと思った。あとは、もう少し大きな規模で話し合いを持てればよりいいものになると思った。
- 継続的な話し合いの場づくりということで、年に1回のまちづくり懇談会では話が毎年繰り返されてしまうので、それを定期的に行えるように、先ほど後藤議長から話のあった「計根別未来塾」の会でうまく話し合いの場づくりができるのかなと思った。  
なので、是非とも参加願う。

#### 教育長

私は計根別小学校で平成12年から平成15年まで教頭をしていました。その時にたくさんの方々に協力していただいて環境整備をするなど、計根別は非常に思い出のある地区です。

先ほども話したとおり、来年の5月に全国町村教育長会議で発表する機会があるので、お世話になった計根別地区の宣伝をしっかりしてきたいと思っています。

#### 副町長

今日は非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。中標津市街の方々とは違った視点で、計根別の自分の地域を色々語っていただき、これからが楽しみであると同時に、これからどんな要求が寄せられるのかという不安が色々入り混じっています。

計根別振興計画については以前より町長から言われていた部分でもあり、行政も一緒になって考えていければいいなと思っていますので、よろしくお願いします。

#### 町長

今日は、中標津市街地で開催したまちづくりを考える懇談会の5倍位の方が来ています。「わがまち意識」、「わが村意識」といった「地域意識」というのは非常に大切なので、ぜひとも議論を重ねていって、いい地域になるよう、よろしくお願いします。